

挿し木繁殖／アジサイ

教科・場面

理科社会

授業・実践のねらい

- ・植物のふえ方には様々な種類があることを知る。
- ・挿し木を通して、植物の生長に対する関心を高める。
- ・丁寧に作業する経験をつむ。

対象の児童・生徒

高等部 グループ

- ・植物のふえ方には、種によるもの、球根によるものがあることは今までの学習を通して既知である。
- ・手指の巧緻性には個人差があるが、一定の集中力があり、言葉かけと手を添えるなどの支援で作業をすることが可能である

教材・教具

- ・校内のアジサイ（穂木を採取する活動も行う。）
- ・鹿沼土・培養土・珪酸塩白土・肥料など
- ・メネデル（発根促進剤）
- ・フェルト

工夫したところ

- ・手触りの良い土を用意し、土に楽しく触れられるようにした。
- ・プランターを手作りした。

授業展開・教材の使い方・実践の内容

- ・6月23日…アジサイの穂木採取、メネデル溶液を作り吸い上げ後挿し木。
（この際、薬剤原液を100倍に薄める必要があること、薄め方を示す。
↑事前に何度か学習しておくとなお良かった）
- ・10月6日・13日…フェルトプランター作成。
- ・10月20日…培養土、鹿沼土、珪酸塩白土、あくぬき剤（ヤシガラ）、肥料を混ぜる。
挿し木アジサイの苗をフェルトプランターに鉢上げ。



授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・用意された植木鉢に苗を移植するのではなく、自分で培養土の調整を行ったり、植木鉢を作ったりするなど長期にわたって取り組みを行った。自分で増やしたものとして喜びが大きい様子も見られ、植物の生長への関心が高まったと感じた。また土を混ぜる経験も積み、土の種類や働きに対してアプローチできた。